



中間市ゼロカーボンシティ宣言

近年、世界各地で地球温暖化の影響とみられる異常気象や大規模災害が発生し、日本国内でも毎年のように記録的豪雨や巨大台風により甚大な被害を受けています。

2015年に合意された「パリ協定」では、世界の平均気温上昇を産業革命以前に比べて2℃より十分低く保ち、1.5℃に抑える努力を追求することとされました。

また、2018年には、気候変動に関する政府間パネル（IPCC）による特別報告書では、気温上昇を1.5℃に抑えることによって、多くの気候変動の影響が回避できることが強調され、そのためには2050年までに世界全体の温室効果ガス排出量実質ゼロを達成する必要があるとされています。

我が国でも、2020年の内閣総理大臣所信表明で、2050年「温室効果ガス排出実質ゼロ」の方針が示され、衆議院及び参議院の両議院において、気候非常事態宣言が可決されています。

中間市は、肥沃な遠賀平野に位置しており、緑豊かな田園風景を残しながら、北九州経済圏の発展に資する住宅都市として魅力あるまちづくりを進めてきました。そして、人々の生活と産業を支える遠賀川の水質保全や水源の確保など重要な機能を保ちながら今日に至っています。また、これまでも、持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けて努力し、北九州都市圏域の各自治体と連携して脱炭素社会の早期実現に取り組んできました。

私たち中間市は、今後いっそう、市民、事業者、団体等のみなさんとの協働を進め、気候変動や異常気象の影響を抑え、豊かで安心して暮らすことができる環境を守り育て、後世に引き継ぎ、社会・経済活動を推進するために、2050年までに二酸化炭素の排出量を実質ゼロにする「ゼロカーボンシティ」の実現を目指すことを宣言します。

令和4年（2022年）1月25日

中間市長